

JREU TOKYO

業務部速報



2026.06.09 No.49

発行：JR東労組東京地本 業務部

東地申第14号「上野統括センターにおける乗務ユニットの統合について」に関する解明申入れ団体交渉を行う(その①)

東京地本は「上野統括センターにおける乗務ユニットの統合について」提案を受けて以降、関係職場の組合員と議論を重ねて5月20日に団体交渉を行いました。具体的な交渉内容は以下の通りです。

(田端乗務ユニット) → 田端(上野乗務ユニット) → 上野と読み替える

1. 田端統括センターが発足してから今日までの成果と課題を具体的に示すこと。

(回答)これまでの硬直的な仕事の垣根を超えた柔な働き方の実現により、系統や事業分野を超えた業務に取り組んできたところであり、社員の活躍フィールドも広がったと考えている。

組合	会社
田端社員の働き度をどのように評価しているのか？	初の統括センター発足を担い、駅乗務、イベント開催など、他に類を見ない多様な働きに取り組んで頂いた。施策を担っていただいたことは会社として評価している。
この4年間、田端の社員は会社施策に振り回されてきたのではないか。	会社は社員の活躍フィールドの拡大を望んでいる。乗務機会が減り技量維持に苦勞をさせてしまったと思う。
活躍フィールドが広がった定義とは？	定義はないが、改札に入るなどお客さまの前に立ったこと。今までの業務プラス何か出来る事が増えたこと。企画、運営に携わって出来るようになったこと。

2. 田端乗務ユニットと上野乗務ユニットが統合する目的とメリットを示すこと。

(回答)安全・安定輸送の確保を前提とし、社員の活躍フィールドのさらなる拡大及び業務執行体制の効率化を図ることを目的として、統合を行うものである。

組合	会社
業務執行体制の効率化を図るとは？	社会の環境の変化、会社を維持していく為に、今後の人口減少になる中で、列車ダイヤを維持し、お客さまにご利用して頂くにはどうするのかである。安全を阻害するような進め方はしない。確認
社員の活躍フィールドをさらに拡大したい理由は何か？	統括センターを始め、事業本部化に向けて現業機関と非現業機関の垣根をなくし、会社全体で取り組んでいく。
乗務員目線で今回はどのようなメリットがあるのか。	田端は上野の行路を日頃から乗務する事で各線区の技術が保てる。上野は、その他時間で駅案内だけでなく、改札に入るなど踏み込んだ対応が出来ること。
統合しなくても、上野乗務ユニットに行路を渡す、現場長の指示でその他時間を拡大など出来るのではないか。	2区所になると効率が悪い部分もある。臨時列車を乗務するなど、双方向で技術が磨けるのではないか。田端が企画業務で行ってきたことは活かせると思っている。
上野側のメリットは？	将来的に臨時列車を乗務するなど範囲の拡大。工臨など乗務出来ることがメリット。
モビサとして統合に向けた説明を現場でされている事を把握しているのか？	提案以降説明し伝えてしていると聞いている。今後も施策に対して理解が得られるように必要な周知は行っていく。確認

その②へ続く